

ニセコ町にお住まいの皆さまへ
NISEKO DO it

討議資料

まちづくりの 政策提案集

た な か
田中 けん と

kento Tanaka

「住民参加」「情報共有」歩みを止めないニセコ町

対話 から
まちの未来を **7** つの 挑戦。

子育て・教育への挑戦。

健康増進の挑戦。

次世代まちづくりの挑戦。

対話で動かすまちへの挑戦。

住まいとインフラ整備に挑戦。

地域経済のさらなる振興への挑戦。

稼げる自治体への挑戦。

未来を創造
志高く！

34才





この政策提案集は、ニセコ町での7年間の活動を通じて、
多くの人と出会い、課題に耳を傾け、改善策を模索してきた中で
考えた提案です。

ニセコ町に暮らす「すべての世代」が
笑顔で安心して暮らしていけるように——

そんな願いを込めて、一つひとつの項目をまとめました。
まだ“想い”の段階にすぎない提案かもしれません。
でも、これから対話を重ね、行動し、挑戦を繰り返しながら、
町の未来を、少しずつでもより良い方向へ進めていきたいと思っています。

田中 けんと

Kento Tanaka

1991年（平成3年）8月2日生まれ
（34歳・獅子座のA型）
2児のパパとして子育て奮闘中。

大学進学を機に上京するも、起業を志して中退。東京でベンチャー企業の創業に携わり、WEB・動画・SNSを活用した採用・マーケティング支援に従事。グループ会社の代表も務める。

2016年、故郷・北海道への想いから札幌にUターンし、株式会社ノースアンビシャスを設立。自治体や企業と連携し、事業開発や採用支援を展開。2020年にはニセコ町で官民連携の「株式会社ニセコまち」を設立し、取締役役に就任（現在は退任）。社会課題の解決を目指し、北海道のまちづくりに挑戦している。

Contents

プロフィール	4
ニセコ町の現状	5
人口増減	6
地方債・償還額の推移	7
30年後のニセコ町アンケート結果	8

まずは今のまちの状況を皆さまと共有させてください。未来を作る上でとても重要です！

対話でつくるまちの未来 7つの挑戦

1 対話で動かすまちへの挑戦	10
2 こどもまんなかのニセコへの挑戦	12
3 住まいとインフラ整備に挑戦	14
4 地域で健康増進の挑戦	15
5 地域経済のさらなる振興への挑戦	16
6 次世代まちづくりの挑戦	17
7 稼げる自治体への挑戦	18

7つの挑戦は、町民の皆さまの声を聞いて考えました。今後も対話をしながらアップデートをしていきます。



ニセコ町に惹かれ 育てられ 挑戦したくなった。

この町が教えてくれた

「住民自治」のまちづくり

この町に暮らす一人ひとりが、「誰かがやること」ではなく「自分のこと」としてまちの未来を考え、意見を出し合い、ときには行動し、共によりよい地域をつくっていく。

この考え方こそが、私はニセコ町の理念だと感じています。

雄大な自然や、先進的な取り組みももちろん魅力です。

しかし、私がニセコ町に心を惹かれた最大の理由は、「みんなで話し合って、未来をつくっていこう」という理念でした。

変えていきたいこと、もっと良くしたいことはたくさんあります。

けれど、この「まちの精神」だけは、変わってほしくないと願っています。

ニセコ町での主な活動

- ニセコミライ町内会長
- ニセコ町商工会
- ニセコライオンズクラブ
- ニセコ町 広報広聴検討委員
- ニセコ町 連携コーディネーター
- 北海道コンサドーレ札幌
ニセコ後援会 理事





ラジオニセコの番組収録



町民運動会でリレー出場



ニセコライオンズクラブでの活動

ニセコ町への想いと、これからの挑戦

7年前、SDGsをテーマにした「ニセコミライ」の策定をきっかけに、私はニセコ町と深く関わるようになりました。多くの方と語り合い、コロナ禍を共に乗り越える中で、ニセコの一番の魅力は、自然や景観だけでなく「ここに暮らす人たち」そのものだと感じました。

しかし今、町の外からの華やかなイメージと、暮らす人たちの実感にはギャップがあります。「家がない」「土地が高い」「働き手不足」「生活ににくい」——そんな声が増えています。

このままでは大好きなニセコの魅力が、失われかねません。だからこそ、これまでの精神を受け継ぎ、ブランド力を活かして、まちの魅力を最大限に引き出す、新しいリーダーになりたいと思いました。

民間で培った経験を活かし、住民参加と情報公開のまちだからこそ、もっと対話を重ね、将来の世代まで誇れるニセコを共につくっていきたい。この冊子では、「ニセコ町の現状」と皆さんとの対話から生まれた「7つの挑戦」を紹介します。どうぞご覧ください。

Next Page ▶

**ニセコの今を
考える**

現状から未来を
一緒に考えましょう

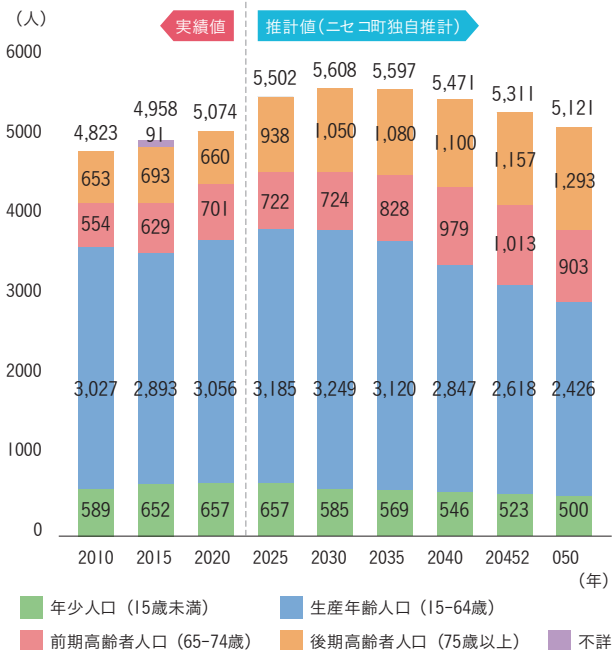
人口増減について

ニセコ町の人口は現在、微増傾向にあります。しかし、将来の推計では少子高齢化が進み、生産年齢人口は減少していきます。

だからこそ、未来を担う子どもたちが「またニセコに帰りたい」「この町で暮らしたい」と思えるまちづくりを進めていく必要があります。

各世代別人口の推移・将来人口推計

[第6次ニセコ町総合計画より引用]

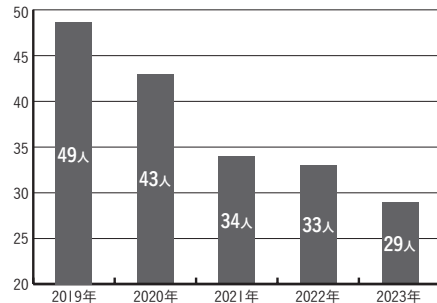


近年の出生数・合計特殊出生率

[参考：第3期ニセコ町自治創生総合戦略より引用]

出生数

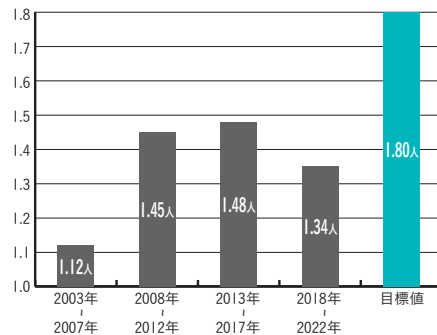
ニセコ町の出生数は
確実に減少傾向



合計特殊出生率※

2008年頃から概ね
横ばい状態が続いて
います

※合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性が生涯で産む子供の平均数を示す指標です。この数値が低いほど、少子化が進んでいることを示します。

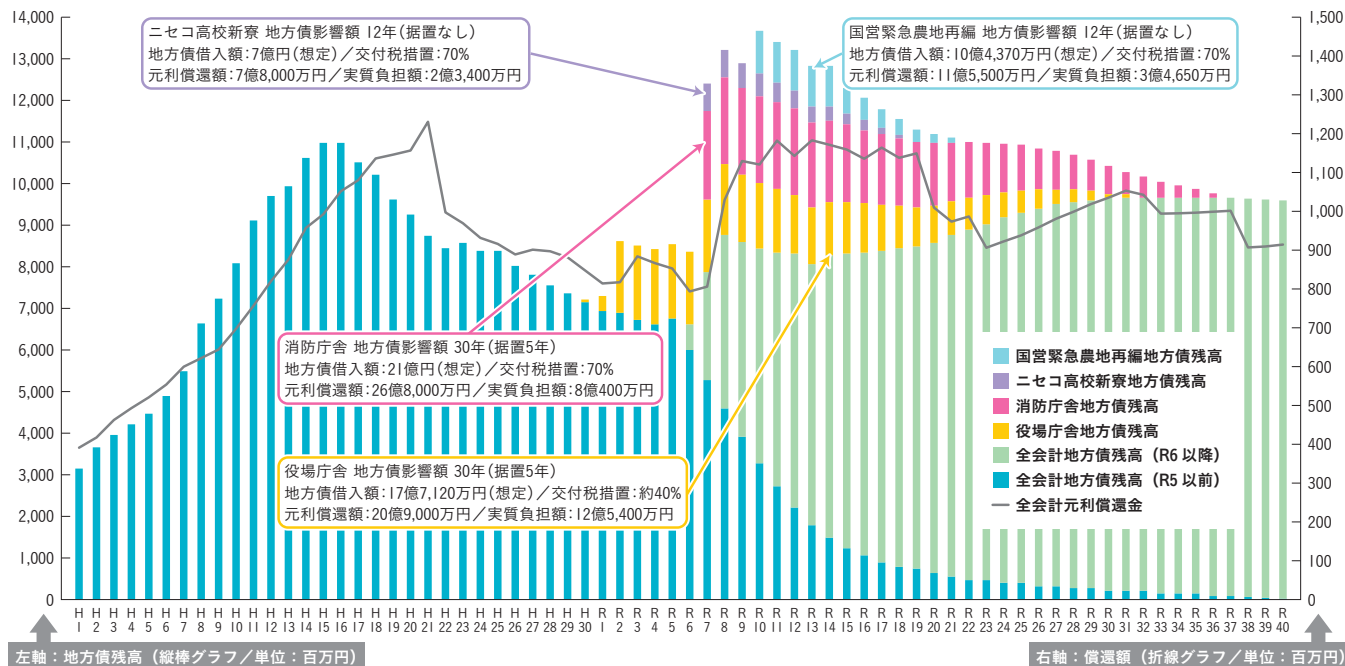


公債費(借金)の増加が見込まれています

地方債残高・償還額の推移

[参考：令和8年以降7億円借入条件]

ニセコ町はこれまで、必要な社会基盤整備に有利な地方債制度を活用してきました。ただし、有利な地方債であっても、今後は町の実質的な負担が増加する見込みです。また、令和12年度(2030年度)には過疎地域指定から外れる可能性が高まっています。これからは、これまで以上に計画性と柔軟性を兼ね備えた財政運営が求められます。



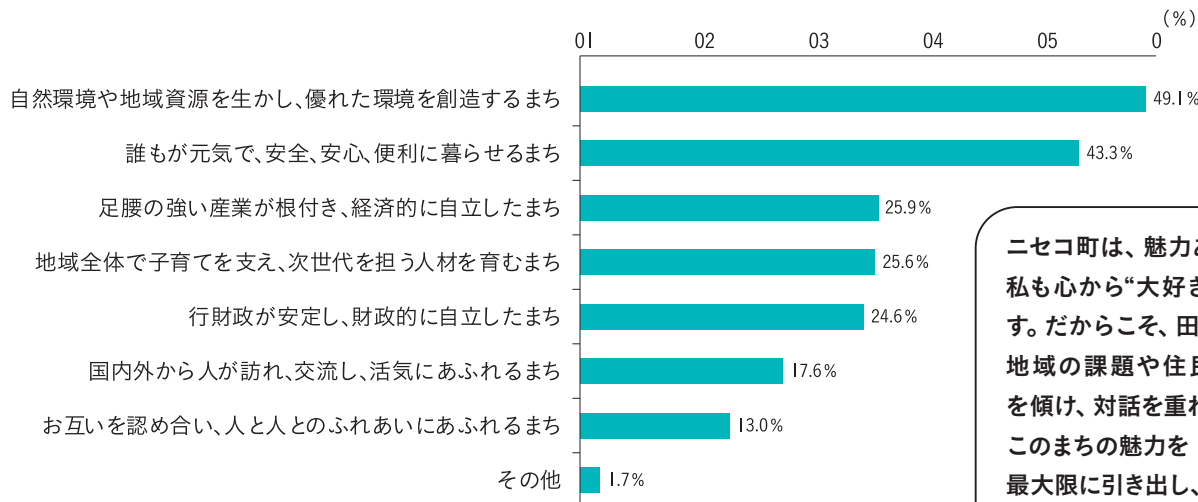
[ニセコ町役場「ニセコ町長期財政評価」より引用]

2030年代の ニセコ町の将来像

今から10～15年後の2030年代に
どんな町になってほしいか

[参考：2024-2035 第6次ニセコ町総合計画より]

第6次ニセコ町総合計画の策定にあたり、「2030年代のニセコの将来像」についてアンケートを行いました。その結果、最も多かったのは、これまで大切に積み重ねてきた「自然環境や地域資源を生かし、優れた環境を創造するまち」。続いて、「誰もが元気で、安全・安心・便利に暮らせるまち」が挙がり、そのほか産業・子育て・行財政に関する意見が続きました。これは、町民が自然や環境の価値を守りながら、暮らしの安心や便利さも大切にしていることを示しています。



ニセコ町は、魅力あふれる、私も心から“大好き”なまちです。だからこそ、田中けんとは地域の課題や住民の声に耳を傾け、対話を重ねます。このまちの魅力を最大限に引き出し、未来へつなぐために。



対話からまちの未来を

7つの挑戦。

次のページからは、ニセコ町のまちづくり提案を紹介します。この7年間の活動、そして皆さまとの数えきれないほどの「対話」をもとに、政策案をまとめました。

ニセコを愛する皆さまと共に、これまで以上に対話を重ね、将来の世代まで誇れるニセコ町を築いていく。その道を、一緒に歩いていけると確信しています。

1 対話で動かすまちへの挑戦

2 こどもまんなかのニセコへの挑戦

3 住まいとインフラ整備に挑戦

4 地域で健康増進の挑戦

5 地域経済のさらなる振興への挑戦

6 次世代まちづくりの挑戦

7 稼げる自治体への挑戦





1 住民自治と行財政改革

対話で動かすまちへの挑戦

これまで以上の住民参加と情報公開のまちへ

私は、対話を起点としたまちづくりに挑戦します。まちの憲法ともいえる「ニセコ町まちづくり基本条例」が掲げる「情報共有」と「住民参加」の2つの柱をさらに浸透させ、町民一人ひとりが自ら考え、行動する住民自治の基盤をより強固にしていきます。あわせて、時代の変化に即した行財政改革を進め、信頼される行政組織をつくります。職員が誇りを持って働ける環境づくりにも挑戦します。

1 住民自治に必要な「場」と「支援」の強化を目指して

住民自治を実現するには、意見を交わす「場」と、活動を支える「支援」の両方が欠かせません。

対話集会を継続的に開催し、情報公開を強化することで、町民との信頼関係を深めます。また、町民講座や住民説明会の役割や位置付けを見直し、双方向の学びと意見交換の機会に変えていきます。地域で活動する団体や住民の自主的な取り組みへの支援を強化し、まち全体の自治力を高めます。

2 時代に合った行政運営の改革を

多様な価値観や働き方が求められる今、行政にも変革が必要です。働きやすい職場環境の整備や柔軟な働き方の推進により、職員の意欲と能力を最大限に引き出します。さらに、人材育成や研修機会の充実、人材投資の強化を進めます。また、複業人材の活用や行政経験者の再登用など、人材の流動性と多様性を広げます。こうした人員体制の充実と機構改革を通じて、より機能的で開かれた行政組織を目指します。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

★ オンラインまちづくり対話室(オープンチャット)

▶ 意思決定課程の透明化

▶ 対話集会の継続的な開催

★ 情報公開の強化

★ 町民講座や住民説明会の役割や位置づけの見直し

▶ 町民主体の様々な活動や団体への支援の強化

▶ 働きやすい職場環境の整備、時代に即した柔軟性のある働き方の推進

▶ 積極的な人材育成や研修機会など人材投資の推奨

▶ 複業人材の活用など人材交流の促進

▶ 行政経験者・出戻りを歓迎する採用

▶ 公務員の副業(地域貢献型)の実証的な導入の検討

★ 行政職員の人員体制の充実と機構改革

住民自治と
行政改革

地域で
子育て

暮らし

健康
生活

地域
経済

次世代の
まち

財源
確保



Q 対話を起点としたまちづくりというのは、具体的には何をするの？

まずは、率先して住民や職員の声を直接聞くことを大切にします。「なぜ？」を繰り返し、潜在的な課題や本音を引き出します。行政として、これまで以上に積極的な情報発信を行い、対話集会では立場や役職の垣根を越えて、まちの課題や取り組むべきことを同じ目線で考えます。住民と行政が一緒に解決策を創ることで、「住民自治」の精神を育みます。さらに、ニセコ町らしく、対話から生まれた声を政策に反映する仕組みを整えます。また、住民が主体となって活動する取り組みを継続的に支援します。



Q 働きやすい職場環境は、どんな状態ですか？

まずは、職員一人ひとりと対話することから始めます。そこで見えてきた課題や可能性をもとに、意思決定過程の透明化、組織の価値観の明確化、それに連動した人事評価制度を整えます。こうして、目指すまちの未来像と、一人ひとりの仕事がつながっている状態に近づけます。行政組織の最大の財産は「人」です。だからこそ、業務効率化の仕組みを整え、多様なライフステージに応じた柔軟な働き方を提供します。職員が「ここで働いてよかった」と心から思える職場をつくります。



2 地域で支え、未来を担う



こどもまんなかのニセコへの挑戦

将来のニセコを担う世代にもやさしいまちへ

未来を担う子どもたちが健やかに成長できるまちをつくります。地域全体で子育てを支え、ニセコらしい学びと教育を充実させます。次世代を担う若い世代が、将来も住み続けたい、また帰ってきたいと思える環境を整えます。孫や子どもにやさしいまちづくりと、現役世代が子育てしやすい環境を同時に進め、まち全体を元気にします。さらに、ニセコならではの学びを通じて、子どもたちが地域に誇りを持ち、将来地元に戻ってきたくする循環を生み出します。

1 子育てと学びを支える 施設整備を進めます

子どもたちが安心して過ごせる環境づくりは、地域全体の未来への投資です。天候に左右されず親子が集える全天候型の子育て・交流拠点を整備し、子育て世代の孤立を防ぎます。さらに、既存施設の改修によって子どもの居場所や遊び場を充実させます。学びの場としての快適性と安全性も高めます。

2 子どもと家庭を支える 支援制度のさらなる充実を

子どもたちの健やかな育ちと学びを支えるため、高校生までの医療費無償化を継続します。さらに、一時預かりや産前産後ケア、不妊治療支援を充実させ、子育てを幅広くサポートします。スポーツ・文化芸術・スキー/スノーボード活動への支援や、多世代が参加できるイベントを推進します。また、食育の充実、部活動の地域移行、子ども議会など、子どもたちが主体的に関われる機会も広がります。加えて、ニセコ高校改革や奨学金制度の拡充など、学びの選択肢を広げ、多方面から子どもたちを支えます。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

- ▶ 全天候型の子育てや交流拠点整備への挑戦
- ★ 既存施設の改修を含む子どもの居場所や遊び場の整備(親水公園など)

- ▶ 高校生までの医療費無償化の継続
- ▶ 子どもの一時預かり機能の充実
- ▶ 不妊治療支援、産前産後ケアの充実
- ▶ 子どもたちのスポーツや文化芸術の関心を高める機会の推奨
- ★ 子どもたちのスキーやスノーボード活動への支援の強化
- ▶ 親子や多世代で参加しやすいイベントの推奨
- ▶ 食育の推進と給食食材の地産地消の推進
- ▶ 部活動の地域移行の推進
- ▶ 子ども議会やまちづくり委員会を含む子どもとの対話機会の創出
- ▶ ニセコ高校改革の推進(起業家教育と国際教育)
- ▶ 町出身やニセコ高校卒業生への奨学金制度
地元就職時の支援制度



Q 全天候型施設って必要ですか？外で遊べばよいのでは？

冬が長く、夏が短いニセコだからこそ、安全に遊び、交流できる屋内空間は重要です。予算や財源に応じて、新設に限らずさまざまな方法で、子どもの遊び場や放課後の拠点を整備します。これにより、孤立しがちな子育てを防ぎ、多世代交流の拠点をづくります。これまでの期間限定の取り組みからも、利用ニーズは高いことがわかっています。さらに、周辺市町村からも「ニセコに行きたい」と思える施設とすることで、まちの魅力向上や経済効果の波及も期待できます。



Q 子育て世代向けの取り組みばかりで、高齢者福祉とのバランスはどう考えるのか？

私は、子育て世代にやさしいまちは、先輩世代にもやさしいまちにつながると考えています。先輩世代が健康でいきいきと活動する姿は、子どもたちや現役世代の私たちにとって大きな学びと励みです。だからこそ、高齢者福祉をおさなりにすることはありません。ただし、将来を担う世代への投資は、まちの未来そのものへの投資です。その成果は、将来にわたりまちを支える担い手を育てることにつながります。大切なのは、世代を分断して考えるのではなく、世代をつないで考える視点です。





3 安心して便利に暮らせる

住まいとインフラ整備に挑戦

暮らしを守る、次世代につなぐ基盤づくり

誰もが安心して暮らせるよう、生活の土台となるインフラ整備を進めます。行政だけでなく官民が連携し、将来を見据えたまちの基盤を築きます。インフラ整備は大きな投資を伴うため、ニセコ町らしく対話を重ね、議論を深める場を増やします。住民の皆さんからの要望の多い公用バスの導入とあわせ、インフラのあり方を、皆さんと共に考え、合意形成を経て推進します。さらに、ニセコ町の美しい景観や自然環境の保護にも継続して取り組みます。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

- ★ 公用バスの導入の検討
- ▶ 不足している住宅整備の推進
- ▶ 公有地の活用による民間主導の住宅整備の検討
- ▶ 家賃の一部助成制度の段階的な導入の検討
- ★ 公共施設へのエアコン設置の推進
- ▶ 水資源の保全や上下水道の整備
- ▶ 除排雪の仕組みの持続的な体制づくり
- ▶ 森林のパトロール員制度の試験的導入
- ▶ 公共施設や公営住宅の管理や運営方法の見直し
- ★ 防災体制の強化



Q 予算が膨らむ中、ハコモノ投資は本当に必要ですか？返済も心配です。



ご心配はもっともです。私も将来世代への財政負担には強い危機感を持っています。投資ありきではなく、本当に必要な事業を見極め、優先順位をつけて判断します。既存の仕組みを活かし、小さく始める工夫も大切にします。一方で、まちの発展には一定の投資も欠かせません。人口増や過疎債の活用期限を踏まえ、経営感覚を持った財政運営で進めていきます。



4 生涯いきいき宣言

地域で健康増進の挑戦

スポーツ・文化・交流で健康寿命を伸ばすまちへ

年代や性別を問わず、身体も心も元気に、自分らしくいきいきと暮らせる地域をつくります。運動や文化活動を通じて、世代を超えたつながりやコミュニティを広げます。また、地域の環境を活かしたニセコらしい健康増進の取り組みを推進します。快適に過ごせる環境整備も進め、地域全体で健康とウェルビーイング（心身の充実と社会とのつながり）を実現します。

声から考える ニセコ町のこれから

（★印は対話集会から出た新たな声です）

▶ ニセコ町総合体育館の改修

★ ジムなどのトレーニング施設の整備

★ スポーツ施設（子どものサッカー練習場など）の整備や利活用の検討

▶ 総合型地域スポーツクラブの連携や推進

▶ 生涯スポーツの推進と競技力向上の取り組みの推進

▶ フットパスやハイキング、ウォーキングの奨励

▶ 森林浴や自然体験を活用した健康プログラムの推進

★ スポーツイベントなどにおける移動・交通手段の充実

▶ 多世代で交流ができる機会の推進

▶ 町民主体のスポーツ・文化・芸術などの振興や活動の支援

★ 高齢者見守り制度の拡張

▶ ニセコスタンダード住宅（身体に優しく、環境にも優しい）や省エネ改修の推進

▶ プロスポーツチームとの連携、運動教室や、スポーツ教室の実施



Q 総合型地域スポーツクラブの連携や推進とはどういうことですか？



地域の住民が世代や競技を超えて協力し、つくり、運営し、継続していく地域運営型のクラブ活動です。これまでは学校の中で完結していた部活動を、地域ぐるみで支える形に移行するもので、国も推進している新しい仕組みです。子どもから大人、高齢者までが一緒に活動することで、世代間交流の場が生まれ、健康づくりや地域のつながり強化にもつながります。



5 農業と観光を軸とした

地域経済のさらなる振興への挑戦

地域資源を活かす仕事と地域づくり

ニセコの強みである豊かな自然環境や農産物、観光資源を最大限に活かし、地域に活力を生み出します。生産性や付加価値の向上を目指す事業者には、現場に寄り添った伴走型支援を行い、「農業」と「観光」を軸に地域内外との連携を深めます。また、事業承継や人材不足といった課題にも向き合い、後継者の確保や働き手の確保に挑戦します。こうした取り組みを通じて、地域で安定して働ける環境を整え、住み続けられる・帰ってきたくなるニセコをつくります。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

★ 観光協会の活性化や体制の見直し

▶ 付加価値や生産性の向上やニセコブランド化への支援

★ 新たに商業に挑戦する場所の整備

▶ 町有地の貸与による民間企業との連携

▶ 老若男女が活躍しやすい働き方や仕事マッチング

▶ 地域内経済循環の強化

▶ 通年型の観光に向けた地域資源のブランディング

▶ 国営農地再整備事業の継続

▶ 農業用の資材などの補助や支援

▶ 農業従事者向けの資格取得等の支援

★ 新規就農者と後継者育成の推進

▶ 森林ビジョンの実現（見本林の整備）



Q 慢性的に人手が足りていないのですが、どうお考えですか？

ニセコ町では、観光・農業・建設など多くの産業で人手不足が深刻化しています。雇用を増やしたくても、住まい不足や人口減少に伴う人材の奪い合いが課題です。この状況を改善するため、①地域に合った短期雇用や副業の仕組みづくり、②ニセコ高校改革と連動した地元就職・Uターン支援を進めます。さらに、③ICT活用による業務効率化や④住宅整備など、雇用の受け皿を広げる多面的な対策を講じます。これらにより、地域の産業を支える人材の確保と定着を促し、持続可能な地域経済を守ります。





6 自然環境を守り、暮らしと産業の質を高める 次世代まちづくりの挑戦

ニセコを担うすべての世代にやさしいまちへ

交通、医療、福祉、買い物、脱炭素など、暮らしに直結する課題に対し、デジタルやAIの活用、そして地域や分野を超えた連携による新たな解決策を進めます。具体的には、移動手段が限られる方のためのオンデマンド交通の拡充、遠隔医療やオンライン診療の推進、高齢者と子育て世代の助け合いモデルの構築、地産地消型の買い物支援、そして再エネ活用による脱炭素のまちづくりを展開します。ニセコ町が大切にしてきた「共感に基づくまちづくり」を継承し、多様な関係者と協力しながら、将来世代も安心して暮らせる地域づくりを進めます。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

- ▶ 新しい公共交通の取り組みへの挑戦
(市街地バスの自動運転の実証実験等)
- ★ デマンドバスを町民が優先して使いやすい運用方法への挑戦
- ▶ 移動販売車の誘致への挑戦
- ▶ 遠隔医療ややすりの宅配サービスの実証実験
- ▶ デジタルやAIなどの技術による生産性や効率性を高める挑戦
- ▶ 脱炭素社会への適応
- ▶ 広域連携の促進
- ★ 官民連携の強化
- ▶ 少子高齢社会への適応



Q 新技術の導入は不慣れな人に不親切では？既存の事業やインフラ整備が優先では？

新しい技術の導入にあたっては、慣れていない方への配慮が欠かせません。そのため、既存の事業や支援策、従来の方法も継続しながら、希望する方には対面・電話・紙の案内など、なじみのある手段も選べるようにします。デジタルやAIの活用は、人にしかできない役割や地域のつながりに時間を使うための手段と位置づけます。また、道路や上下水道、防災などのインフラ整備は引き続き優先的に進めます。人口減少や少子高齢化の中でも、従来の安心感と新しい利便性を両立させるために、発想を柔軟にし、変化に挑むまちづくりを進めます。





7 トップセールスと財源確保

稼げる自治体への挑戦

関係人口や企業の創出と公共財産の有効活用へ

活気ある町には、安定した財政基盤が欠かせません。ニセコの持つ高いブランド力を最大限に活かし、「自ら稼ぐ自治体」への転換を進めます。その利益は地域に還元し、住民の暮らしと未来を支える力に育てます。人口増加に伴う住宅や上下水道の整備、役場庁舎・消防庁舎・新高校寮、国営農地再編事業など、大規模公共事業の地方債返済がこれから始まります。こうした負担を見据え、財源を「守る」だけでなく「生み出す」取り組みが必要です。ふるさと納税や企業版ふるさと納税、共感型寄附、官民連携による施設活用、企業誘致など、複数の手段を組み合わせる収入源を多角化します。そして、2030年度以降に過疎地域指定が外れ、有利な財源が使えなくなっても、まちが持続的に発展できる体制を整えます。「稼ぐ力」で守るのは財政だけでなく、ニセコで暮らす人々の安心と誇りです。

1 新たな財源の確保と活用

ニセコの未来を支えるには、限られた税収や補助金だけに頼らず、「地域の強みを活かして稼ぐ力」を高める必要があります。ふるさと納税（個人版・企業版）の強化に加え、ニセコの物語や価値観に共感していただける「共感型寄附」や「物語型クラウドファンディング」を活用し、全国から多様な寄附を呼び込みます。また、まちの課題解決と連動した企業の共創型社会投資を誘致し、地域経済と暮らしを同時に豊かにします。さらに、宿泊税の継続、視察対応の有償化、広報媒体での企業広告枠の設定、施設のネーミングライツの導入など、民間と連携して新しい財源を生み出す仕組みをつくります。こうして得られた収入は、子育て支援や高齢者福祉、防災・インフラ整備など、住民の安心と地域の魅力向上に再投資します。

2 町内資源の見直しと活用

ニセコ町が持つ町有地や公共施設などの資源は、限られています。だからこそ、「眠っている価値を掘り起こし、町の力に変える」視点がが必要です。行政財産を活用した官民連携事業を積極的に推進し、公共施設の運営方法や利用料・家賃設定も見直します。これにより、町民が優先的に使える仕組みを整えると同時に、財政の健全化を進めます。また、町内外へ魅力と可能性を発信し、企業や団体との連携を拡大。将来世代まで持続可能で活力ある地域づくりを進めます。

声から考える ニセコ町のこれから

(★印は対話集会から出た新たな声です)

▶ 個人版及び企業版ふるさと納税の強化

- ▶ 共感型寄附や物語型クラウドファンディングの活用
- ▶ 自治施策と連動した企業からの共創型社会投資や寄附の呼び込み
- ▶ 宿泊税の継続
- ▶ 視察対応の有償化の検討
- ▶ 広報ニセコ等の企業広告枠の設定

- ▶ ネーミングライツの検討
- ▶ 行政財産を活用した官民連携事業の推進
- ▶ 町民を優先した公共施設利用料金の見直し
- ▶ 公共施設運営方法や施設利用料、家賃設定等の見直し
- ▶ ニセコ町の魅力や情報を発信



Q そもそも、ふるさと納税を推進して財源を確保することはできるの？

はい、可能です。ニセコ町ではすでに個人版・企業版ふるさと納税に取り組んでおり、2024年の個人版寄附金額は約1,4億円でした。これは増加傾向にあります。隣接する倶知安町では約11.7億円と大きな差があります。この差は「返礼品の魅力づくり」「プロモーション方法」「事業者との連携」に起因しており、ニセコ町もブランド力を生かした戦略的PRやマーケティング、町内事業者との協働による新たな返礼品開発で、十分に寄附額を伸ばせる余地があります。重要なのは、単に財源を増やすだけでなく、寄附を通じてニセコ町のファンや関係人口を増やすことです。これにより、将来にわたって観光や移住・企業進出など、多面的な地域活性化につながる効果が期待できます。



Q 自治体が稼ぐ力が増えたら、自由にお金を使えるようになるの？

自治体の財源には、税収や地方債、国からの交付金などがありますが、その多くはあらかじめ使い道が決まっています。そのため、収入が増えても、すべてを自由に活用できるわけではありません。しかし、ふるさと納税や自主財源など、使途を比較的自由に設定できる財源を増やすことで、町独自の挑戦や将来の投資に回せる余地が広がります。特に2030年度以降、過疎地域指定が外れる見込みで、これまで活用できた有利な財源が使えなくなる可能性があります。だからこそ、今から「稼ぐ力」と「柔軟に使える財源」を確保し、時代や制度の変化に対応できる体制を整えることが必要です。



住民自治と
行政改革

子育て
地域で

暮らし

健康生
活

地域経
済

次世代の
まち

財源確
保

「対話」からニセコ町の まちづくりを 進めます。



声がチカラに 想いをカタチに

7つの挑戦を軸に、ニセコ町に暮らす皆さんと対話を重ね、「孫の世代にも誇れるまち」を目指します。経験はまだ多くありませんが、その分、先入観なく物事を判断し、すぐに行動できます。

「やったことがない」「前例がない」「慣習がある」。そんな壁を越え、一步踏み出す職員や町民の挑戦を応援し、自らも実践するリーダーを目指します。

「ニセコ町だからできる、まちづくり」。暮らしの形や子育ての現場、農業や地域産業の課題に向き合い、今だからこそ「住民自治のまちづくり」をもう一度考えたい。町民は自ら考え行動し、役場は「声を聴き、行動する」存在へ。私も町民の一人として、民間で培った現場力と幅広いネットワークを活かし、国内外の仲間たちと共に、世界に誇れる暮らしと産業のまちニセコ町へ向けた活動を続けます。

田中けんと後援会 会長 **林 知己**

ニセコ町のことを真剣に考え、これからの未来に向けて何ができるのかを、自らの足で確かめ、実直に行動し、若いながらも、年齢を超えた覚悟と責任感が感じられます。今、私たちの地域には、新しい視点や柔軟な発想が求められています。次世代を見据え、発想力と行動力、人と人をつなぐ力を活かし、まちづくりに取り組んでいます。

本資料は田中けんと後援会が討議資料として作成したものです。

お友だち登録をお願いします！

あなたのお声をお聞かせください⇒

携帯のカメラから読み込み、ライン登録



田中けんと後援会事務所

北海道虻田郡ニセコ町字富士見168-31-105

TEL 080-4731-7264

✉ kouenkai@tanaka-kento.com

<https://tanaka-kento.com/>